リツキサン療法クリニカルパス

様

	リツキサン投与当日
観察	治療の副作用を早く発見するために、リツキサンの投与開始前・投与速度増加時、終了時に観察・検温に伺います。 リツキサン投与中に悪寒、気分不快・冷汗・吐き気・かゆみ・のどの違和感・便意・腹痛等の体調の変化があったら、 すぐに医師、看護師にお知らせください。また点滴の針先の痛みや腫れなどがある場合もすぐに医師・看護師にお知らせください。
安静	制限はありません。 
食事	食事ができます。 
清潔	入浴できます。 
排泄	制限はありません。 
診察	治療前に診察があります。 
処置	リツキサン投与のための点滴ルートを腕に確保します。 リツキサン初回投与の場合には、安全のために治療開始前より心電図モニターと酸素濃度を測定する機械をつけます。 リツキサンの投与終了時に看護師がモニターをはずします。   
検査	
薬物療法	アレルギー予防のために、ポララミン、ソル・コーテフが混注された生理食塩液の点滴を３０分かけて行います。 
説明	医師が治療・薬の副作用について説明します。 薬剤師が薬について説明します。  
指導	看護師が、副作用出現時の対応について説明・指導します。 
目標	治療についてにイメージができる。 副作用の理解ができる。（インフュージョンリアクションの症状） 体調の変化があったときに医療者に伝えられる。 副作用に対して早期対応が受けられ、苦痛や症状が最小限に抑えられた治療が受けられる。

＊症状、経過によってはスケジュール通りにならない場合があります。

2017年12月7日作成（2023年3月）パス委員会承認　B8病棟